

111

演題 住民と行政とSCのつながりを考察する

副題 SCの仕事とは？

法人名

施設名

発表者名
(職種) 横須賀老人ホーム(北下浦
地域包括支援センター)

共同発表者

共同発表者

共同発表者

共同発表者

都道府県

住所

TEL

FAX

メールアドレス

URL

今回の発表施設
またはサービスの
概要

《取り組みだ課題》

生活支援コーディネーターが令和2年4月に北下浦包括支援センターに配置をされて約2年ほど経過しました。昨年度はコロナ禍で生活支援コーディネーターとして活動の制限もありました。地域をまわっていると、住民から「包括さんとはもう(繋がりが)切れてしまったと思った。」との声が聞かれることがあります。今年度より専任で生活支援コーディネーターが配置されて、地域住民から求められる役割についてどのようなことがあるのか？現時点でのつながりを通して、地域の住民からの視点でのニーズを確認してみたいと考えました。

《具体的な取り組み》

質問形式でインタビューを地域の支え合い団体と横須賀市の生活支援コーディネーターに行い、今後、生活支援コーディネーターとして、地域でどのように活動をしていくといいのかを、より具体的にインタビューを通して考える事が出来れば良いと思ひ、この研究を行う事にしました。

《活動の成果と評価》

「顔の見える関係」「地域の住民の近くに」との言葉が良く聞かれました。生活支援コーディネーターとして地域の住民が、どのような思いを持って住んでいる地域で活動をしたり、生活をしているのかを代弁出来るくらいに関わっていくこと。また地域の資源とは何かを考え、把握して繋げていくことが、今回、インタビューをして「顔の見える関係」「地域住民の近くに」との言葉の意味なのではないかと考えました。

《今後の課題》

「地域包括支援センターの印象と認識」と「どんな存在になって欲しいか」とのインタビューで「地域住民の認知度が低い」「地域住民の関係性が薄い」「地域包括支援センターが高齢者の通えない場所にある」との声が課題としてありました。